

土屋・吉沢地区の路線バス等公共交通に係る意見交換会について

令和5年4月に神奈川大学理学部がみなとみらいキャンパス（横浜市）へ移転したことから、土屋・吉沢地区のバス路線について、主な利用者であった学生・職員等の利用が無くなり、今後の維持確保が課題となっています。

このため、令和4年から行政・交通事業者・地域がお互いの考えを共有するための、情報共有及び意見交換を進め、令和5年2月18日のダイヤ改正では、1時間に1本程度のバス路線が確保されました。ダイヤ改正後の利用状況を踏まえ、公共交通の利用促進等について協議・検討を進めてまいります。

○ 平塚市地域公共交通網形成計画の位置付け

(2)-① 施策体系・施策メニュー	(2) 公共交通の利用が不便な地域への対応 ①地域内交通の整備 ◇既存路線バスの確保・維持、改善 ◇路線バス以外の地域内移動手段の確保
施策内容	<既存路線バスの確保・維持、改善> ・市内70系統の確保・維持、改善 市内には約70のバス系統がありますが、利用者が減少している路線もあります。バス路線は地域のニーズに応じた運行が重要であるため、利用動向等を把握しながら、経路やダイヤの変更を適宜行うとともに、居住地区内を運行できる小型車の導入によるバス路線の新設・再編等について、関係機関と連携して検討を進めます。 なお、神奈川大学経営学部及び理学部移転後の土沢地区のバス路線については、 <u>再編を視野に市、交通事業者、地域とともに検討します。</u>

○ 令和6年度の意見交換会及び取組みの状況について

(1) 第1回 令和6年5月30日（木）18:00～19:00

場所:土屋公民館

出席:平塚市交通政策課、神奈川中央交通株式会社、

神奈川中央交通西株式会社 平塚営業所、

土屋地区自治会連絡協議会4名、吉沢地区自治会連合会2名

【主な内容】

- ・令和6年4月時点の路線バスの利用状況を確認。前回調査（令和5年11月）と比較して、土曜日の利用が増加しましたが、それ以外の曜日はほぼ横ばいの利用者数で推移しており、路線の維持が非常に厳しい状況にあり、大学跡地の利活用方針によっては路線やダイヤを見直す必要がある旨報告されました。
- ・市から、土屋・吉沢地区の路線バス等利用促進に向けたアンケート調査の実施の案をお伝えしました。本意見交換会で出た意見を踏まえ、市で再度アンケート案を作成し、次回の意見交換会で精査することになりました。
- ・交通事業者から吉沢地区にある寺前橋バス停について、平塚駅方面のバス停を吉沢公民館近くに移設することと、既存バス停位置の反対側に秦野駅方面のバス停を新設することについて、報告がありました（8月1日移設済み）。

(2) 今後の予定

第2回 令和6年9月30日（月）18:00～

(参考) <令和5年度の意見交換会及び取組みの状況について>

(1) 第1回 令和5年6月30日(金) 18:00~19:15

場所:土屋公民館

出席:平塚市交通政策課、福祉総務課、神奈川中央交通株式会社

土屋地区自治会連絡協議会3名、吉沢地区自治会連合会3名

【主な内容】

- ・交通事業者からダイヤ改正後の土屋・吉沢地区の路線バスについて、一部を除き1本あたり数人という利用状況であり、路線の維持が非常に厳しい旨が報告されました。
- ・市から路線バスの利用促進に向けた取組みの1つとして、地域へ路線バス時刻表を回覧で配布することを提案し、自治会から了承されました。また、吉沢地区に対して、住民主体の地域内移送支援について概要を説明しました。
⇒ 令和5年8月に土屋・吉沢地区へ自治会を通じて、利用促進を目的にした路線バス時刻表を各戸配布
- ・自治会からは、神奈川大学の跡地利用を見据えて当面のダイヤ維持を要望。また、吉沢地区から、市によるコミュニティ交通等の導入について要望がありました。

(2) 令和5年9月30日(土) 18:00~19:10

場所:土屋公民館

出席:平塚市交通政策課、神奈川中央交通株式会社

土屋地区自治会連絡協議会5名、吉沢地区自治会連合会3名

【主な内容】

- ・時刻表各戸配布後(9月)の利用状況の変化を確認。4月時点と比較して、土曜日は顕著な乗客の伸びが見られました。
- ・市から全国各地の利用促進策について紹介。
- ・市から秦野市の事例を元に、コミュニティ交通の運行について紹介。
- ・市から路線バスの利用促進に向けた、バスの乗り方教室などのイベント開催を提案しました。イベント開催に適した場所や時期など、調整を要するため、今後の検討課題としました。

(3) 令和6年1月30日(火) 18:00~19:10

場所:土屋公民館

出席:平塚市交通政策課、神奈川中央交通株式会社

土屋地区自治会連絡協議会5名、吉沢地区自治会連合会3名

【主な内容】

- ・11月の利用状況の変化を確認。9月時点と比較して、土曜日の利用が落ち込み、全体的には横ばいの利用者数でした。
- ・利用者数が僅少な状況に加え、乗務員不足や2024年問題等、路線の維持についてさらに厳しい状況であり、対策を考える可能性がある旨が、路線バス運行事業者から報告されました。
- ・バス利用促進のイベントについては、引き続き検討課題としました。
- ・東京都葛飾区や川崎市宮前区の事例を元に、行政で車両を保有し、地元でドライバーを募集して地域内の生活利便施設を循環するコミュニティ交通について紹介しました。自治会からはドライバー不足が課題であり、土屋地区の地域内移送支援でも課題となっている旨の話が出ました。

以 上